

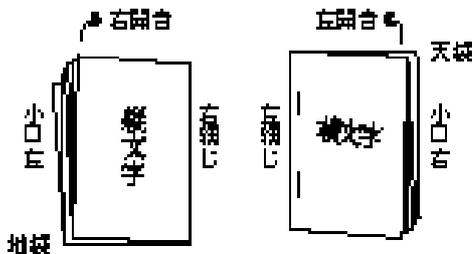
# 製本のススメ

Vol. 46

晩秋という言葉がぴったりになってきました。銀杏の実もすっかり落ちて、落ち葉を掃除するのも一苦勞です。最近では焚き火禁止の地区も多く、焼き芋の楽しみは無くなってしまいました。何だか風情が無いな~と思う秋です。

今回は製本とDTPのお話（2回目）

今回は先月の続きから始めましょう。日本語には「縦組（縦書き）」と「横組（横書き）」とがあり、それによって綴じる場所が違いますね。縦組の本は折丁の袋が下（地袋）で綴じは右側です（右開き）横組の本は折丁の袋が上（天袋）で綴じは左側です（左開き）覚えていますか？ **左開きの本は天袋・右開きの本は地袋（野下袋）**でしたね



折り丁図

文字の組み方で面付け位置が変わりますし、綴じ方によっても変わります。

では、**中綴じはどうでしょう？**背の中心を綴じますが、やはり横書きの本は天袋縦書きの本は地袋（ケシタ袋ともいいます）にしてください。

**これは印刷と製本の共通ルール**と言えますので、ぜひ覚えてください。

縦組（縦書き）の本：右綴じ・右開き（左から右へ頁をめくります）**地袋**（けした野下袋）  
横組（横書き）の本：左綴じ・左開き（右から左へ頁をめくります）**天袋**

印刷の後加工では、製本のみでなく製品にするための様々な機械や業種が係わりその全てが共通のルールを主軸に動いています。次回は、このルールに沿った面付けのお話です。



## Teabreak

製本では折丁・丁合いと「丁」という言葉をよく使います。「丁」は和本から出た言葉と言われ、木版刷りで和紙に2頁分を見開きで印刷し、これを「丁」と呼びました。木版は裏側からバレンで擦るので片面印刷です。これを2つ折にして袋綴じで本を作りました。ページという概念ができたのは両面印刷ができる様になった明治以降のことです。

by (株) 井関製本